

平成 29 年度第 4 回 松江市公共交通利用促進市民会議

○日 時 平成 30 年 3 月 15 日(木) 10 時 00 分～11 時 40 分

○場 所 松江市役所 西棟 5 階 防災センター

○出席者 (委員)

田中隆一、永見繁徳、渡部浪子、小数賀安富、佐々木和子、礪谷昭、石倉知樹、
家島滋、伊瀬孝子、佐々木弘臣、三島花子、木下正人(代理)、勝部昌幸、
飯野公央、浅田純作、眞田安利、梶谷彰宏、藤原誠、桑原満夫(代理)、山崎浩、
福島琢二、森原透

(事務局)

歴史まちづくり部長 藤原亮彦

歴史まちづくり部次長(都市政策課長) 永田明夫

交通政策課長 比田誠

交通政策課交通企画係長 佐藤広樹、交通政策課バス交通係長 石津宏明

交通政策課交通企画係主任 岩崎信也、交通政策課交通企画係副主任 福本浩紀

交通政策課バス交通係専門企画員 松本健

交通政策課バス交通係副主任 安部耕太郎

交通政策課バス交通係副主任 谷元昌晃

○内 容 1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1)報告事項

ア コミュニティバスに関するアンケート調査【結果の概要】

イ 広域交通の取り組みについて

・ JR 西日本

・ 一畑電車

ウ ノーマイカーウィークの取り組みについて

・ 第 9 回松江市一斉ノーマイカーウィーク実施結果

・ 松江市一斉ノーマイカーウィーク参加事業所表彰式

・ ノーマイカーウィークに関するアンケート調査結果

(2)協議事項

ア 第 10 回松江市一斉ノーマイカーウィークの実施時期について

4 意見交換

5 その他

(1)八束コミュニティバス出発式について

1 開会

(比田課長)

それでは、定刻になりましたので、平成 29 年度第 4 回松江市公共交通利用促進市民会議を開催させていただきます。本日の司会を務めます歴史まちづくり部交通政策課長の比田でございます。

会議に先立ちまして、本日使用する資料を確認させていただきます。会議次第、委員名簿、会議資料、別紙「松江市一斉ノーマイカーウィークに関するアンケート調査結果報告」、「コミュニティバスに関するアンケートへのご協力のお願い」、会場で配布いたしました一畑電車のチラシと JR のダイヤ改正時刻表をお配りしておりますので、資料等の無い方がいらっしゃいましたら、職員までお知らせいただければと思います。

ご発言をいただく際には、席のマイクを使用いただきまして所属とお名前を頂戴した後にご発言いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議の出席状況でございますが、過半数以上の出席を得て、設置要綱第 8 条 2 項に定めます定足数を満たしておりますことをご報告申し上げたいと思います。

2 あいさつ

(比田課長)

それでは開会にあたりまして、飯野会長よりご挨拶をいただきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

(飯野会長)

皆さんおはようございます。年度末のお忙しい中、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。おかげ様をもちまして、今日が今年度の最後、市民会議のメンバーとこうやって一堂に顔を揃えるのも今日が最後になろうかと思います。本当に 2 年間ありがとうございました。今日は先ほどもありましたが、松江市一斉ノーマイカーウィークに関することと、初めて実施しましたコミバスの実態調査についての話を皆さんとご議論したいと思います。

ご承知のように少子高齢化が進む中で、合併をした旧町村部のコミュニティバスというのは非常に厳しい状況にあります。しかし一方で、こういった交通手段が無くなってしまいますと、ますます過疎化に拍車がかかるのでしょうか、地域疲弊が進んでいくということが危惧されています。そういう意味では、厳しいながらもどうやってみんなで維持していくのかという方向に、益々この市民会議というのは力を注いでいく必要があるでしょうし、だからこそ、この市民会議の位置づけ、あるいは重要性というのが益々高まってくるのかなと個人的には思っておりますので、どうか引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは議事に入りましょうか。

(比田課長)

ありがとうございます。それではこの後の議事進行につきましては、飯野会長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

3 議事

公開・非公開について

(飯野会長)

まず最初に、本日の会議の公開、非公開についてお諮りいたします。事務局から本日の会議で非公開とすべき案件等がございますでしょうか。

(比田課長)

特にございません。

(飯野会長)

はい、わかりました。それでは公開ということで進めさせていただきます。

報告事項ア コミュニティバスに関するアンケート調査【結果の概要】

(飯野会長)

それでは議事に移ります。まず報告事項です。コミュニティバスに関するアンケート調査につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

(石津係長)

「コミュニティバスに関するアンケート調査【結果の概要】」資料1を基に説明。

(飯野会長)

ありがとうございました。初めての調査ということで、随分事務局には苦勞をかけましたけども、いろんな実態が数字として把握できたというのは大きな成果だったかと思います。そういう意味では、今後これをベースにしながら、各地区でどうやって利用を増やしていくのかという、ある意味ではようやくスタートラインに立てたのかなというの部分もあります。せっかくですので、この調査につきまして質問、疑問あるいは今後の展開につきまして何かアドバイス等ございましたら、よろしく願いいたします。どうぞ。

(石倉委員)

失礼します。コミュニティバス利用促進協議会連絡会から出席しております、石倉と申します。ご説明いただきました交通政策課のスタッフの皆様は大変ご苦勞して、このような膨大な調査を、詳細にわたりまして実施していただきましたことに対しまして、深く敬意を表します。ありがとうございました。

実は私も長年、このコミュニティバスの利用促進についていろいろ各地区の皆さん方と一緒に「どうしたら利用促進につながるか」ということを検討しているところですけども、今ご説明があったように、乗客が非常に少ないということ、それからこの調査をご覧になって分かりますように、利用者というのはだいたい買い物と通院ですね。当然他の利用もあるんですが、この2つが占めているということです。それから利用者が限定されているということですね。それともう一つは、免許証を持っておられる方々はコミュニティバスとは疎遠だということ、ご説明があったとおりですので、その辺も今後どうするかということ。

それから説明にもありましたように、私、八雲の出身ですけども、昨年の8月9月に町内6か所に高齢者に集まってもらって、福祉井戸端会議ということで、お困りごとは何ですかという設問に基づきまして、いろいろ高齢者の方にお問いかけしました。コミュニティバスのことにつきましては先ほどもご説明があったように、特に八雲は自宅からバス停まで遠い方が結構多いです。ですから、買い物をしてもバスを降りてから自宅まで500mは歩かないといけないとか、そういうことが非常に多い。天気の良い日ばかりではございませんので、雨の日、風の日、雪の日等々ありますので、自宅、ドア to ドアですかね、自宅の玄関前からも目的地までスツと行けるような交通手段が欲しいという方も結構いらっしゃいました。

それぞれの地域で課題があらうと思いますので、それぞれの地域で、バスの利用促進はどうしたらいいか

ということをご検討いただければと思っておりますので、この大変膨大な資料でしたけども、この資料に基づきまして、それぞれの地域に下ろしていただいて、今後の活用方法を考えていただければよろしいんじゃないかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。意見なり感想なりをまとめて報告させていただきました。失礼いたしました。

(飯野会長)

ありがとうございます。他にいかがでしょう。はい、どうぞ。

(家島委員)

古志原地区の家島と申します。私も以前に島根町から鹿島町までの移動にコミュニティバスを利用させてもらったんですけど、まず本数が少ない。それから、目的地まで直線で走りませんので、こんなにグルグル回るのかという思いをして、随分時間が掛かったことを記憶しております。

それから、先ほどのアンケートにもありましたが、ほとんど利用者がいらっしやらない。一応想定して回っているコースもあるようですが、もしできれば、事前に予約制のような形で「何月何日に乗りたい」という形をとって、予約の入っている方をできればドア to ドアで拾ってあげれば、大変喜ばれるじゃないかと。ただそのためには、若干のご負担も受益者負担という観点からご負担いただくと。ただしタクシー代ほど高くなっては意味がありませんので、そのあたりを勘案して、事前登録制のような形でできれば、随分喜ばれるじゃないかと思いました。私が乗った時もほとんど乗客は私 1 人だったような気がしまして、1 人とか 2 人ごく少数しか利用しない路線も随分あるように思いますので、そのあたりのロスが無いような形でできれば、それで利便性が高まれば喜ばれるじゃないかと思いました。以上です。

(飯野会長)

ありがとうございます。できるだけ住民に寄り添うということも大事です。しかし一方で、バスは一定程度決められた時間、決められたコースを走るというあたりとの整合性をどう図っていくか、非常に難しい課題ではありますが、逆に先ほど石倉さんがおっしゃったように、利用者がある程度限られている、利用者の顔が見えているということがあるならば、その状況をきちんと拾っていくということがむしろ大事なのかなという判断もあるかもしれないですね。ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

これからいろいろ入っていきますので「もし今後こんなこともやったらどうか」とか、家島さんのようなアドバイスでも助かります。時間も押していますので、また後で思い出されましたら、総括の時に質問をお受けしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

報告事項イ 広域交通の取り組みについて

- ・ JR 西日本
- ・ 一畑電車

(飯野会長)

それでは続いて広域交通の取り組みということで、今日は JR さんと一畑電車さんからお話があるようです。まずは JR さんからお願いします。

(桑原代理)

「広域交通の取り組みについて」資料 2 を基に説明。

(飯野会長)

ありがとうございました。続きまして一畑電車さんよろしく願いいたします。

(山崎委員)

「広域交通の取り組みについて」資料3を基に説明。

(飯野会長)

どうもありがとうございました。少し質問時間を取りたいところですが、時間が押しておりますので、個別に質問がありましたら、会議後にそれぞれの事業者の方にお尋ねください。

報告事項ウ ノーマイカーウィークの取り組みについて

- ・第9回松江市一斉ノーマイカーウィーク実施結果
- ・松江市一斉ノーマイカーウィーク参加事業所表彰式
- ・ノーマイカーウィークに関するアンケート調査結果

(飯野会長)

それでは引き続きまして、ノーマイカーウィークの取り組みについて、事務局より報告をお願いしますが、時間が押しているので要点のみ報告をよろしく願いします。

(福本副主任)

「第9回松江市一斉ノーマイカーウィーク実施結果」資料4を基に説明。

(岩崎主任)

「松江市一斉ノーマイカーウィーク参加事業所表彰式」資料5を基に説明。

(福本副主任)

「ノーマイカーウィークに関するアンケート調査結果」資料6を基に説明。

(飯野会長)

駆け足でお願いして申し訳ありませんでした。こういう形での参加事業所への詳細なアンケートは今回が初めてなので、そういう意味では、実際に参加されている事業所の皆さんがどう思っているのかが非常にリアルに分かったことがメリットではないかなと思います。この調査につきまして、何か皆さんからご意見がありますでしょうか。

個人的には、やはり企業の皆さんに会社経営にとって何かメリットがあるような方法を今後は考えていかないと、より積極的な参加を促すのは難しいかなというところが気になるところです。

それと、従業員の居住地にもよる訳ですが、どうしても車が必要だという業態もありますし、逆に車は特に必要としないという業態もあります。そういう意味ではそういった業務の中身によって、少しアプローチの仕方を変えていく必要があるということも検討課題に見えてきたのかなという気がします。よろしいでしょうか。意見がありましたら後でよろしく願いいたします。

協議事項ア 第10回松江市一斉ノーマイカーウィークの実施時期について

(飯野会長)

それでは次の協議事項になりますが、先ほども少しお話がありましたが、第10回ノーマイカーウィークの

実施時期について、少しお話ししたいと思います。では事務局より説明お願いいたします。

(佐藤係長)

「第10回松江市一斉ノーマイカーウィークの実施時期について」**資料7**を基に説明。

(飯野会長)

ありがとうございます。開催時期については、前回会議でも少し議論になっているんですが、10月に繰り下げたらどうかという事務局からの提案です。

もう一つ重要なのは、実は土日の利用というのを少し頑張らないとということです。企業の皆さんの協力で、平日は定期利用なんかが増えてきて、結果は見えてきているんですけど、実は土日の利用がなかなか結果が出ていないというのがこの間のデータが示していることなんですね。土日の利用をもっと増やすために、イベントが比較的多いこの期間にした方がイベントと連動していろんなことが出来るのではないかという趣旨もあります。なぜ10月にするのかというのは、このイベントの連動というのはそういう意味を含んでいます。これについて、皆さんのご意見をお伺いしたいと思います。

「秋の交通安全運動と一緒に取り組むことに意味があるんだ」という意見ももしかしたらあるかもしれないし、今日は松江警察署からはご欠席のようですが、10月に開催時期を変更することについて、事前に警察署と何か話し合いはされたんでしょうか。

(佐藤係長)

この件について、松江警察署とお話をさせていただいたことはございません。

(飯野会長)

わかりました。皆さんの方から、特に異論が無いと受け取ってよいでしょうか。どうぞ。

(佐藤係長)

事務局としましては、これからノーマイカーウィークを広く周知していって、かつ取り組みを広げていくためには、先ほど飯野会長がおっしゃられたような、土日をターゲットとした取り組みも重要だろうと考えておりまして、そういった観点から申しますと、案2で提案させていただきたいと考えております。

(飯野会長)

この10月15日から21日というのは、何か特別な理由があるんでしょうか。単に一か月位ずらしたという理由ですか。

(佐藤係長)

アンケートでもいろんな意見がございました。「月末は参加が難しい」などの意見もいただいたことや例年の市内イベントスケジュールを見ましてこの時期が良いんじゃないかというところで設定をさせて頂いております。この周辺には「鉄道の日」もございますので、そういった連動も考えられるかなという気もしております。

(飯野会長)

わかりました。ありがとうございます。全国的にみると、このノーマイカーデーから段々、ノーマイカーウィークへと移行してきている。あるいは、富山は先ほど「鉄道の日」の話もありましたが、1か月位実施

するんですね【※富山県は9月20日のバスの日から10月14日の鉄道の日までの期間で行っている】。こういったことを啓発する地域の取り組みの期間がだんだんと長くなる傾向が全国的にありまして、そういう点でも10月のこの時期にやるというのは、いろんな交通モードに関する日がありますので、啓発的に良いのかなという気がしています。いかかでしょう。よろしいでしょうか。これを軸に考えるということで。

※委員了承

(飯野会長)

はい、ではそのような形にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

4 意見交換

(飯野会長)

そうしますと本日の議事は以上となります。なにか皆さんから意見を申し上げることがあれば。

(田中委員)

プロジェクトゆうあいの田中です。今日の議題とちょっと外れるのですが、昨年安来市で「公共交通情報のオープンデータ化」をテーマにしたセミナーが開かれまして、元鳥取大学の先生で、いま東京大学の先生をされています伊藤先生が、これからバス情報をどんどんオープンデータ化していくべきじゃないだろうかとお話しされました。オープンデータの前にですね、昨年3月に「標準的なバス情報フォーマット」というものが国交省さんのお墨付きで仕様が決まりましたので、一畑バスさんも、市営バスさんもコミュニティバスさんも、日の丸バスさんも、少しずつ標準的なバス情報フォーマットにバス情報を訳していく流れを作っていくといいんじゃないかと思っています。

この話、ちょっと分かりにくいかなと思うのですが、「Yahoo!路線検索」と「NAVITIME」では、一畑バスと市営バスは検索に出てきます。これは各バス会社がそれぞれの路線検索会社に情報を提供して、それら2社が彼ら独自のシステム用に変換してるんですね。それを独自ではなく標準的なフォーマットにしておくことで、他の検索会社でも変換しやすくなり、システム導入も早くなるということもあります。

そうすると、市内で時刻表やルートを検索しやすくなる。それから、遠方から来られた方でも鉄道とバスの組み合わせでルートを検索しやすくなるんですね。例えば、大阪から島根大学に行きたいという人が「Google マップ」で検索をします。そうすると、現在は松江駅を出てから徒歩30分という表示なんです。それが、市営バス北循環線に乗り換えて15分、バス停から歩いて1分みたいな検索が出来る。松江高専への一畑バスでも同じことなんですね。そういう議論を、市も含めて勉強会からスタートするみたいな感じでやっていったらどうかという問題提起です。

(飯野会長)

貴重なご意見だと思います。独自に路線検索のシステムを作るのも大事ですけど、費用もかかりますし、メンテナンスにも大変な時間と労力がかかります。そういう意味では、国全体として、共通のフォーマットにしていこうという動きに私たちも合わせていくというのはとても大事なことだと思います。ぜひ検討課題にしたいと思います。ありがとうございます。

(田中委員)

ちょっと補足なんですけど、バスネットというシステムがあるんですけど、鳥取で始まって、島根側でも

導入をということで、松江市内のバス会社さん、コミバスさんも協力されているんですけど、すごく限定的なんですよね。そこはこの際、この標準フォーマットに移行したらどうかと思っています。これは県との協議が必要になってくるとは思いますけど、そういうことも含めて、議論が必要じゃないかなと思っています。

(飯野会長)

次年度では、そういうことも含めて議論したいと思います。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(勝部委員)

島根県高等学校 PTA 連盟の勝部といいます。ちょっと個人的なことなんですけど、昨年スイスへ旅行に行きまして、ツアーではないので、全てこちらからの公共交通機関を使って行きました。

ちょっと驚いたことというか、発想の転換なんですけど、大体どこの町も同じだったんですけど、例えばチューリッヒという町ではトラムとバスが市内を走っています。それらは車内に機械が無いんですね。お金を払うカードのような物も無い。要するにバス停でボタンを押して、後はただ降りれば良いんですね。運転手さんのチェックもありません。乗るときもチェックがありません。どういう仕組みかというと、あらかじめ券を買うんですけど、それはキオスクとかホテルとかで売ってるんですけど、その券の中に 2 時間券とか 6 時間券、何日間というのが有るんですね。乗る際に「何日の何時に乗車しました」というものがあれば良いんです。それをバスとかトラムの外に置いてありますから、そこを通した日付が分かれば良いんですよね。あとは、2 時間券でしたら 2 時間までしか乗れない。2 時間券で 3 時間乗ってしまった場合はどうなるかというと、たまにバス会社、当局の人たちがチェックをするんですね。それに引っかかれば、乗車券の何倍もの金額を払わないといけないんですけど、乗客を信用していると。そういった中で、バスの車体に機械を通す必要がない、機械を持ち込む必要もない、そのために我々も非常にスムーズに乗り降りができたということで、設置者もお金を掛けたくなくて、人の信用だけでスムーズに出来ているというところが良いなと感じました。

また、運転手さんが親切で、最初は全然分からなかったんですけどね、乗ったら無料でバスの運転手さんがホテルの近くのバス停で降ろしてくれましたし、ホテルで券を買ってトラムに乗ったら、時間のチェックをしていなかったものですから、わざわざトラムの運転手さんが目的地までの経路を案内してくれて、すごく親切な対応をしていただきまして、こういうのも有りなのかなと感じました。以上です。

(飯野会長)

今のご指摘は、実は日本の公共交通全体に対して提示されている、研究者の間ではそういう話はよく出るんですけど、いわゆる「信用乗車システム」と言われるものです。そうすると乗り降りに手間がかからない。つまり、着いたらドア全部開けておけばいいんですね。好きなところから乗って、好きなところから降りるという、乗り降りに手間がかからない非常に便利なシステムです。ですからこれが出来る為には、あるいは日本のお金の授受のシステムを全部変えていく、そこはこれから先、新しい公共交通のシステムを考える時には絶対に避けては通れないことだと思います。

ちなみに先ほどお話がありましたが、たまに摘発されると、ヨーロッパの場合ですと罰金が 40 倍から 50 倍です。これは概ね 40 回ないし 50 回に 1 回位摘発されるという、摘発の確率から逆算している数字だそうなんです。日本の場合 JR なんかではキセル乗車は 3 倍ですよ。ですから、そういうところも大きな転換があることができるのかなというシステムです。

(飯野会長)

それでは、今日で今期の委員は最後になります。せっかくですので、この２年間この会議に参加してどうだったのか、来期はこんなことも期待しますということも含めまして、最後に簡単なご挨拶を一人一人お伺いできると嬉しいなと思いますので、順番に市民委員の皆さんから一言ずつお願いします。

(田中委員)

２年間どうもありがとうございました。この会は来年度も続くんですか。またよろしくをお願いします、と言ってもいいものですか。

(佐藤係長)

田中委員さんは公募委員ですので、２年任期ということになります。

(永見委員)

初めて出ましたが、他の面からいろんな交通機関を利用したらより良く出来るじゃないかという意見を反映いただいたことが大変ありがたかったです。ありがとうございました。

(渡部委員)

私はこの会議の発足以来ですので、多分１０年位になるんじゃないかと思いますが、いろいろ勉強させていただきましたし、それから地域の方で少しでもお役に立てばということで公民館長会でもいろんなことを申し上げてまいりました。やっぱり今のノーマイカーウィークも、事業者についてはいろいろ進んできておりますけど、まだまだ地域についてはこれが徹底していないようなことを感じておりますので、これからも地域の方へどんどんいろんなことで広げていただけたらなと思っております。ありがとうございました。

(小数賀委員)

町内会自治会連合会の小数賀です。委員になってからより多くバスに乗る機会が増えたと思っております。私は歩くのが大好きでして、日本海側の道を歩いていて疲れますとコミバスに乗ります。そういった面でご利用させていただいております、コミバスというのは有難いなというのを感じながら利用させていただいております。

(佐々木和子委員)

佐々木でございます。高齢者クラブから出ております。実は昨年５０年振りに同窓会でお会いした方がおります。その方といろいろ話す中で、松江の本当に変わった話の中から、バスの話が出ました。その方は、私も一緒ですけども「若いころ市営バスは青いバスだったね」と。「市営バスの歌は知ってる？」と言われ、「そんな歌があったの」と知りませんでした。「青いバスです～」とその方が歌われまして、私たちの若い頃はバスが本当に生活に密着していたなと、その方と話す中で感じました。是非、こういう交通機関がもっと私たちの密着するようなものになる。そういうところに指針を出していけばいいなと思っております。ありがとうございました。

(硯谷委員)

松江市の身障者福祉協会の硯谷と申します。私たち、それから私も高齢者に入りそうございまして、バスを使う機会がすごく多いです。この会議に参加させてもらいまして、ここでお話を聞いたり、それからご提起したり、あるいはお礼をしたりと、率直にいろいろお話する中で、大変ありがたく思っております。運

転免許を9月にお返ししました。それこそ今、バスが主な移動手段になっております。本当にいつもお話しするんですけども、特に高齢者の方や、障がい者の皆さん含めてですね。バスの乗務員さんのいろんなお手伝い、乗客に対する気遣いとか、あるいは車内の放送とか、いろんな事が私たちの身近に感じていることがよく分かります。今後ともこういうことを含めて、松江の乗客の皆様方のそういう思いを含めて、ここでご論議されて、さらに是非より良い公共交通ができるように、ひとつ是非お願いしたいと思います。以上です。どうもありがとうございました。

(石倉委員)

松江市の13地域で運行しておりますコミュニティバスの組織の中の会長を務めております石倉と申します。先ほど渡部委員さんもおっしゃいましたが、私も発足以来からこの会に出席させていただいております。微力ながら務めさせていただきました。本会では利用促進・サービス向上部会での部会長として、務めさせていただきました。バス停の環境美化活動にご参加いただきましてありがとうございました。以上でございます。

(家島委員)

家島です。以前にもお話ししたと思いますが、私は2つほどこれからの希望といいますか、1つ目は京都の駅前には何人か、観光客が多い街なので「バスの乗り場は何番ですよ」、どこどこ行きたいと言うと「それは何番乗り場で、あそこから出ます」とか、非常に親切に対応してくださる方、それがボランティアなのか、社員の方かは分かりませんが、そういう人がおられます。松江駅前にも以前いらっしゃった気もするのですが、観光客の方、特に外国の方などがおいでの時にですね、例えば八重垣神社へ行くにはどれが良いとかですね、何番から出ます、というガイドができる。観光案内所にそういう方が常駐していらっしゃるかは私も把握しておりませんが、そういったサービス。

そしてもう1つ思いますのは、大学に学生さんとか研修員とかいう形で外国の方がいらっしゃっています。一時期ボランティアで活動をされたこともあるようですが、英語あるいは、私はスペイン語とポルトガル語に若干関わりがあったんですが、そういった人たちがバスに乗りたくてもどのバスがどういうふうに乗っているのかよく分からないと。日本語表記だけだとますます分からないので、利用したくてもできないということを聞きました。中国の研修生の方はぜひぶん遠くから自転車で移動しておられます。節約ということもあるかもしれませんが、結局バスがどういうシステムになっていて、どういう利用ができることというのが分かってないからじゃないかなと思います。特に松江市には国際交流員さんもいらっしゃいますので、そういったところもご協力いただいて松江市のバス路線網の周知を図ると、もう少し利用が高まるんじゃないかなと思います。

私は古志原で松江市内でも高齢者が多い地区なんですけど、あまりバスに関しては利用が少ないですね。なぜかなと思うと、普段使わない方はどういう路線があつて、どれ位の料金かというのがあまり分かっていない方がいらっしゃるの、なんらかの形で、例えば古志原から島根大学に行くのにはこういう路線があつて、料金がこれくらいというモデルプランのようなですね。温泉駅はどうだとか、松江市の中心部に行くのに、病院に行く時にはこの路線が便利ですかですね、あると良いと思っています。私もここに来るのに、なかなか古志原、上乃木から直線では来れません。駅前で乗り換えるときに何番に乗り換えて、何分で着くかということ中は調べると面倒なので、ついつい県庁前とかで降りてここまで歩いて来ます。ただ高齢の方となると、そういうのは難しいので、例えば病院までどこで降りて、あと徒歩何分といういくつかのモデルプランがあれば喜ばれるんじゃないかなと思いました。以上です。

(伊瀬委員)

松江商工会議所女性会から参加させていただいております、伊瀬と申します。当初、松江市公共交通利用促進市民会議とはどんな会議なのかと思って心配しておりましたが、参加させていただいて、ノーマイカーウィークなどいろいろな周知に、たくさんの方に参加していただくにはどのようにしたらいいかという、努力とかデータの集め方とか、本当に皆様のいろんな取り組みを私どもも勉強させていただきました。これを商工会議所女性会の理事会でも発表させていただいております、大変勉強させていただきました。ありがとうございました。

(佐々木弘臣委員)

連合島根の代表で出させていただいております、佐々木と申します。連合島根の代表ということですが、働く者の代表ということでもありますし、私自身も交通の現場で働く一人として参加をさせていただきました。交通事業者の皆さんに叱られるかもしれませんが、交通事業者は保守的なところがあるかなと中にいても思うところがあったり、あるいは公共交通はこういうもんだという少し凝り固まったようなものが業界内にあってですね。業界以外の皆さんであったり、事業者の皆さんの率直な意見をお聞かせしていただく、こういう機会をいただいて、業界内の常識と皆さんが思われることと多少齟齬があったり、やはり皆さんそういうことを考えておられるんだなと様々な意見であったり、議論をさせていただく中で、私たちも様々なことに気づいたり、改めて考えさせていただく良い機会だと思っております。今後も利用促進につなげられるように、現場で働く者の立場でしっかりと取り組みを続けていきたいと思っておりますので、引き続きのご支援、ご指導いただければと思います。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(三島委員)

松江観光協会からの代表でお邪魔いたしました、松江市観光ボランティアガイドの三島と申します。よろしくお願いいたします。私自身はバスをあまり利用していないのですが、仕事柄、市外のお客様から、どのバスに乗ってどこで降りたらいいか、とかそういうことをよく聞かれます。外国のお客様もかなりいらっしゃるしまして、十分に説明できないのですが、そういうご案内をすることができました。この会に入らせていただきまして、関心を持つことができましたのでお客様にもそれだけメリットがあったんじゃないかと思っております。

(木下代理)

松江環境市民会議の代理で出かけました木下でございます。私ども日頃、環境保全の活動ということで、省エネや CO2 の削減、エコドライブの啓発といったようなことを日頃やっておりますけれども、公共交通関係のこういった活動は環境問題には切っても切れない関連しております、この会に出させていただいていろんな意見をいただけるということは大変ありがたく思います。今後も引き続いて協力できるのであれば、参加させていただければと思います。どうもありがとうございました。

(勝部委員)

2 年間お世話になりました。あまりこういったことは知らなかったですけど、本当に松江市の職員の方、担当の方、努力されているなあと思いますし、この市民会議も本当に存在意義があるなと感想を持ちました。市内を走っているバスを愛おしく感じるようになりました。

(飯野会長)

ありがとうございます。時間が予定の 11 時 30 分を過ぎてしまいました。まだごあいさつ頂いていない事

業者の皆さまは来年もいらっしゃることですので、一応最後のあいさつはここまでにしたいと思います。

5 その他

(飯野会長)

最後は、各交通事業者、事務局からお知らせがあれば、よろしくお願いいたします。

(山崎委員)

一畑電車でございます。皆様のお手元にチラシをお配りさせていただいております。このチラシは、弊社で利用していただけます通勤及び通学それからバスとの乗り継ぎ等の様々な定期券のご案内。それと 65 歳以上の方に通常の運賃より割安で乗っていただけますシルバー友の会と、年会費をいただいて会員になっていただくことによりましてさらにお安くご利用できるというシルバー友の会のご案内。また来年度に入りまして、4 月から 5 月末日の 2 か月間なんですけど、弊社の定期券をお買い求めのお客様に対しまして、グループ会社の一畑百貨店、ホテル一畑、島根県立古代出雲歴史博物館で、若干ではございますけども、特典が受けられるというキャンペーンを実施することにしておりますので、機会がありましたら是非ともご利用いただきたいと思います。以上でございます。

(飯野会長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(1) 八束コミュニティバス出発式について

(石津係長)

事務局の石津でございます。私のほうから、八束のコミュニティバスの新規ルートの運行開始に伴う出発式についてご案内させていただきたいと思います。八束地区では公民館、利用促進協議会が主体になられまして、いままで島内の一部と境港を結んでいた路線があるんですけども、それを島内にある買い物施設ですとか、病院等の島内全部を結ぶような路線に改めたいという要望を出されました。それにつきまして地元で利用者の利用意向、アンケートを取られるなど取り組みをされたうえで、市や関係機関と協議をしたうえでルートの決定をしたという取り組みになります。おそらく、地元の方の発案でバスのルート変更をしたのは初めてではないかと思いますが、地元の方が一生懸命取り組まれたということもあって、新ルート運行開始するにあたりまして、利用促進協議会のほうで出発式を開きたいということで、ご案内をいただいておりますので紹介させていただきます。日時が 4 月 2 日(月)の 7 時 15 分、新しいルートでの始発便が 7 時 30 分からになりますので、それに合わせてということで松江市の八束支所前で出発式を行います。運行事業者や地元の皆さまにお集りいただいて、テープカット、花束の贈呈を予定しておりますのでご紹介させていただきます。以上でございます。

(飯野会長)

ありがとうございます。他にありますでしょうか。

(佐藤係長)

引き続き、事務局からでございます。皆様にお詫びがございます。皆様にご審議をいただき、松江市地域公共交通網形成計画を昨年策定させていただいたところでございますが、先日、内容の一部に誤りが見つかりまして、本日正誤表を配布させていただきたいと思います。

計画書の 12 ページのところ、それから計画書の 83 ページのところ、赤字で記載しております数字でござ

いまして、上の段が誤っている数字、下の段が正しい数字となっております。いずれも利用者数に係わる部分の誤りが見つかりまして、正誤表を配布させていただいております。要因といたしましては、記載内容の確認のために乗降データを収集し確認しておりますが、そのデータが当初から誤っていたということ。基となる乗降データについては修正をしましたが、本計画書との照らし合わせについては、修正前の乗降データを使ってしまったというのが原因ではないかと考えております。

いずれにしましても、皆様大変申し訳ございませんが、正誤表に基づきまして、修正をお願いできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(飯野会長)

私どもも再三チェックしたつもりでしたが、チェック漏れがありました。申し訳ございませんでした。

6 閉会

(飯野会長)

本日の議題、その他連絡事項は以上になります。事務局にお返ししますので、よろしくお願いいたします。

(比田課長)

飯野会長にはスムーズな議事進行いただきまして大変ありがとうございました。それでは閉会にあたりまして、藤原歴史まちづくり部長からご挨拶を申し上げたいと思います。

(藤原部長)

閉会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げたいと思います。本日、本当に年度末のお忙しい中、委員の皆さんにはご出席を賜りまして誠にありがとうございます。先程来、話が出ておりますように、委員の皆さんにおかれましてはこの3月末で任期を満了ということになるわけでございます。2年間にわたりまして、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

2年間振り返ってみますと、先ほどもございましたが、平成28年度には松江市の5年間の交通体系の在り方について定める公共交通網形成計画の策定に深く関わっていただきまして、本当にご尽力賜りましてこの計画ができたところでございます。改めまして感謝を申し上げたいと思います。

今年度はこの計画に基づきまして、本日のテーマでございましたノーマイカーウィークをはじめ、この間も話が出ましたバス停の美化活動では現場に出掛けていただきまして、取り組みをいただきました。Facebook等を使った情報発信にも新たに取り組ましましたし、夏場はうちわプロジェクトをやっていただきまして、飯野会長はじめ配布をしていただいたと思っております。そうした取り組みを行うとともに、バスの運行情報提供システムや交通系ICカードなど先進的技術、新たな交通サービスの研究について、一緒に勉強もさせていただいたと思っております。

皆さんもこの話は何回も聞いていただいたと思うんですが、公共交通というのは市民自らが乗って守っていかねければ、将来にわたって安定的に維持できないものであると思っております。この会を立ち上げたときも、それをやはりテーマとして掲げて取り組みをしてきたところでございます。その意義は現在も当然継続されておりますし、会議の活動というものが今後ますます重要になっていくと考えているところでございます。本日も様々な観点から、新しい提案をいただいたところでございます。そういったものをしっかり取り込みながら、継続してこの会の活動をしていきたいと考えております。計画の中で「誰もが安心して優しく移動できるまち松江」の実現を目指して取り組むこととしておりますので、今後とも協力をよろしくお願いいたします。

最近ですね、人口の定住の問題がいろいろとございます。「定住人口」という言葉、それから、その後には「交流人口」、いわゆる観光客とかですね、いわゆる松江を訪れていただく人という意味での「交流人口」という話がありました。昨今は「関係人口」という言葉が出ておりまして、それはその人の度合いでいろんな形で松江市に関わっていただける人をどんどん増やしていかなければいけないじゃないかという概念でございます。そういう意味では、松江市の公共交通に委員の皆様には深く関わっていただきましたので、退任されても引き続き「関係人口」として公共交通に興味、関心をもっていただいて、引き続きご尽力いただければと思っておりますので、改めてお願いをいたしたいと思います。

それでは今後ともお願いを申し上げまして、お礼の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

(比田課長)

以上を持ちまして、平成 29 年度第 4 回松江市公共交通利用促進市民会議を閉会といたします。ありがとうございました。